

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム向陽台(4階・どんぐり)	評価実施年月日	平成 19年 10月 1日
評価実施構成員氏名	水谷 祐子 佐々木 志朱子 村部 幸子	栄 静子 鈴木 一也	永田 鮎美 大瀧 わかな
記録者氏名	水谷 祐子	記録年月日	平成 19年 10月 15日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	自然が多い地域性を生かし、安心した暮らしと一人ひとりが地域の中に役割を見出していく内容の理念としている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	申し送り、会議、カンファレンス等で、理念の意義や具体化について話し合い、ケアについて意見の統一を図りながら実践に移している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	毎月、家族、地域住民に対して広報誌を配布し、ホームの実践内容、理念を記載し伝える様にしている。 又家族には契約時、面会時等に説明している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	地域のボランティアの受入れや、近隣住民から山菜の差し入れ等日常のつきあいがある。 又日常の挨拶等も行なわれている。 又隔月に行われる乳幼児たちと触れ合う地域行事に参加したりしている。	○ ホーム行事に地域住民も参加出来る様な場面作りや、回覧板を回す等、地域の人とふれあう機会を多くしたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の夏祭り、盆踊り等に入居者が参加している。 又入居者が地域に住んでいた為、老人会や近隣の方が定期的に面会に来ている。 中学生の体験学習としての活動の交流が行なわれている。	
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ホームでの実践内容を踏まえて広報誌にまめ知識として記載し、暮らしに役立つ様取り組んでいる。 又実習生の受入れも行なっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員に評価のねらいや活用方法を説明し理解した上で取り組んでいる。改善に向けての具体案や実践に移す努力を全職員で取り組んでいる。	
8	○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ホームからの報告と共に、参加者からの質問、意見、要望を検討し、質の確保に役立たせている。	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の担当者との関わりは少ないが、訪問の際又は電話等でサービスの課題解決に協力してもらえるよう関係の継続を行なっている。	○ 隔月行われる運営推進会議の中で、ホーム側の要望を市の担当者に伝えることで、地域ケア会議の中の一つの議題として取り入れてもらい同業者同士の意見交換の場を作ってもらっている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	地域ケア会議やケアマネージャーの研修で学ぶ機会があり知識を深めているが、ごく一部の職員の理解に終わっている。	○ 研修の機会を作り、全職員が理解し活用出来る様にしていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	虐待の影響等正しく理解しており、行なわないということで統一されている。	
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には重要事項について時間を十分にとって分かりやすく説明している。家族からの疑問等の対しても説明し理解してもらっている。利用料金、医療体制、退居の場合等の不安が生じない様明確に伝え、同意を得て手続きを進めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者からは、日常の会話を通じ不満、苦情等の訴えは見られていない。又入居者自身、嫌がる事があった場合は言動から気付く事が出来るケアを職員が行なえている。入居者の不安、意見等は職員間で共有できており、統一したケアが行なわれている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時には、入居者の最近の状況を伝え、話し合う機会を作っている。又広報誌や居室担当職員から写真入の手紙を送り、その中でホーム内の活動を報告すると共に金銭出納帳のコピーを送っている。ケース記録については内容了承のサインをもらい、受診後には電話にて様子を知らせている。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年に数回家族会や家族参加の行事を行い、意見、要望等を出してもらっている。意見、要望等は職員又はホーム全体で検討し、質の改善に役だたせている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議、内部研修、個人面談の機会を作り、職員から意見、提案等を聞く様にしている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の生活リズムに支障が起きない様シフト調整を行い、突発的な状況にも対応出来る様体制を組んでいる。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ユニットの職員を固定化し、馴染みのケアを心掛けているが、職員の中には離職する人もいる。入居者や家族にも不安を与えぬ様配慮し、引継ぎの期間を設けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修は、職員からテーマを出してもらい、職員全員の質の確保、向上に向け定期的に開催している。 外部研修は、職員同士協力しながら順番に参加している。 尚、研修結果について報告書を作成し職員全員が閲覧出来る様にしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域ケア会議の中で、同業者同士の情報交換が行えており、今後もこの交流を継続していく。 職員が個別に同業者職員と交流し情報交換を行ない、職員に伝達し、質の向上に向けた参考としている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員同士気軽に話し合える状況にあり、悩みを話し合える雰囲気作りを常に心掛けている。 又スタッフルームにて入居者と離れ一息入れる休憩時間を作っている。	
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	運営者も頻繁に現場に来ており、職員の悩みや資格取得に向けた支援を行なっている。 職員の勤務年数、資格等を評価し、向上心を持って働ける環境作りを行なっている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	事前面談時に本人、家族の思いや不安に思っている事を聴き、状況を把握し信頼関係を作る様にしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族が求めているものを理解し、ホーム側からのサービス内容を伝え話し合いを行なっている。 信頼関係を作る為、傾聴、共感、受容に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時、本人、家族の思い、要望を基に可能な対応に努めている。対応困難な場合には、適切な機関を紹介する等の考慮をしている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人、家族にホームを見学してもらい、安心して納得した上で生活を始めてもらっている。雰囲気に馴染める様、家族の面会を増やす等の協力してもらい、入居者の不安を軽減する支援を行なっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者の日常の会話や行動等から感情を共有し、支えあう関係作りを行なっている。又日常の活動の中から入居者側から教えてもらう場面等を多く作る環境を工夫している。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居者の状況等を家族に伝え、一緒に支援して行く為の協力を得る関係作りをしている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ホームでの行事に参加してもらったり、日常生活の様子を伝え、家族の役割を欠く事のない様職員が働きかけている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔からの友人や馴染みの知人等の面会も多く、又実際に会いに行く場面等も作り、継続的な交流が行なわれている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員全員が入居者同士の関係について把握しており、間に入って入居者が孤立せずに楽しめる環境を作っている。 又入居者同士が支えあう、助け合う等の場面作りを行なっている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス終了後も継続的に相談に乗ったり出来る姿勢を示している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の言葉や言動から思いを読み取り、さりげなく聞き出す様にしている。 意思疎通が困難な場合は表情等から読み取り、家族と共に入居者の立場になり話し合っている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	プライバシーに配慮しつつ、本人や家族等から生活歴を聞き、経過等の把握に努めている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者の状況を総合的に把握し、職員同士で情報を共有し、出来る力、理解する力等の能力を把握する様努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入居者が自分らしく生活出来、本人や家族の要望を取り入れ、職員全員でアセスメントやカンファレンス等に意見を出し合いケアプランを作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ケアプランに実施期間を明示し、その期間が終了する際に見直し評価を行なっている。又状態変化や家族の要望等に変化が生じた場合は、期間にとらわれず見直しを行なっている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別台帳や個人ノート等に日々の状況を行動だけでなく、言動やしぐさ等ありのままを記入し、職員間で情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	協力医療機関の協力により入居者の健康管理を行い、又入院した時等は早期退院に向け調整を行なっている。又ホームの建物を利用し、家族参加の行事を取り入れ交流を図っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員の面会も定期的に行なわれており、警察署や消防署等の協力も得られる様働きかけている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	入居者の希望に応じて、訪問理美容サービスを定期的に利用している。体験実習等も取り入れている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議参加者として地域包括支援センターの担当者に出席してもらうことで交流が取れ、相談等に随時対応してもらえる関係を築いている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力医療機関から2週間に1度往診があり、入居者の健康管理が行なわれている。又入居者の変化や健康面で心配な時も随時相談出来指示を仰ぐ関係が出来ている。家族希望による他科受診は家族対応で行なってもらい、受診結果は必ず伝達してもらい様家族に同意を得ている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医療機関に相談し必要があれば専門医を紹介してもらい受診や相談を行なっている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力医療機関の看護師が随時相談にのってくれている。	○	看護職員を配置し、医療的な面で適切な対応がとれる様にしたい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には入居者のフェイスシートを提供し混乱が少ない様にしている。又医師、家族の話し合いに職員も同席し、早期退院へ向けたアプローチをしている。1週間に1度見舞い又は電話等で情報を得ている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	本人や家族の意向、本人の希望する方向を配慮し、医師、家族、職員で話し合い、方針を決めている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員の連携を密にし、入居者が安心して過ごせる様取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p> <p>別の場所に移転する時には、入居者の今までの生活状況及び支援内容を含めたケアプラン等に基づき、移転先の関係者に情報提供しダメージの軽減に努めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p> <p>プライバシー確保の為、他の入居者や家族、面会者に対して個人情報に関わる事に注意深く対応している。 日常生活の中でも声かけや対応をさりげなく行なう様配慮している。 個別台帳等も他人の目に付かない場所に保管する様にしている。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p> <p>入居者一人ひとりに合わせた声かけを行ない、洋服や食べたい物や行きたい場所等を本人が決定出来る場面作りを行なっている。 意思表示の困難な入居者とは表情や行動等から希望等を読み取っている。</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p> <p>起床時間や食事のペース、入浴時間等、入居者のペースに沿って一日の流れを送れる様柔軟な対応している。</p>	○	業務に追われ、どうしても職員側のペースになってしまうことがあるので改善していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p> <p>本人の好みを尊重し、髪型や服装等を個別に支援している。 決定が困難な入居者には、職員と一緒に天候やその日の活動に応じて選び、気持ちを読み取り対応している。 月に1度の訪問理美容サービスにより希望に合わせカット等を行なっている。</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p> <p>毎食、調理、盛り付け、片付け等、入居者と共に行い食事を楽しむ様支援している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居者の嗜好物について本人や家族から情報をもらい、日常生活の中に取り入れている。 又喫煙される入居者は、他の入居者の迷惑にならない様、喫煙スペースを設けている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導、おむつ交換を行なっている。 尿意のない入居者に対しても、行動やしぐさ等からサインを把握しトイレ誘導を行なっている。 失敗した際にも自尊心を傷つけない様さりげなく対応している。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者に希望の確認を取り日時を決めている。 入浴前の健康チェックを行い、くつろいだ気分で入浴出来る様支援している。 入浴を拒否する入居者には、声かけや対応の工夫を行い入浴支援を行なっている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個別に日中の活動量や生活リズムを把握し、ゆっくり休息が取れる様支援している。 睡眠剤を使用している入居者に対しては、偽薬を使用し薬を中止する支援も行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の役割を見つけ、発揮出来る場を日常の中に作る様心掛けている。 食器拭き、テーブル拭き、タオルたたみ等、又は資源回収等、個々の能力に応じて楽しみながら行なってもらっている。 又職員から入居者に対し感謝の気持ちを伝えている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族の希望によりホーム側で金銭管理を行なっている入居者に対しても、外出行事にてショッピングの際、個々の希望や能力に応じて支払うことが出来る様支援を行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	体調や希望に応じて買い物や散歩に出かけている。又知人に会いに外出する入居者に対しても支援を行なっている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個々の希望に沿うよう協力している。職員だけでなく、家族の協力を得ながら実現に向けて取り組んでいる。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	居室に電話を設置したり、又は個々に職員に申し出て気軽に電話している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会に来られた方がいつでも居心地良く過ごせる様対応しスペースの工夫をしている。家族の中には入居者と一緒に入浴や宿泊する家族もおり配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全員が身体的、精神的な拘束は入居者の弊害になることを理解しており、入居者が安全と安心で生活出来る様支援している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	見守りの工夫をし、チームが連携し外出しそうな入居者を察知している。入居者の安全を第一に考え、自由な生活が出来る様さりげなく声かけし、一緒に外出する等の対応を行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は入居者全体が把握出来る位置にて記録等を取り、さりげなく見守りを行なっている。 夜間も定期的に入居者に状況を把握し、安全に配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者の状況を把握し、薬、刃物、洗剤等を注意深く保管している。 ポットや裁縫道具等家庭にある物等は、生活の雰囲気を出す為取り除かず、生活の場に置き活動意欲を出してもらおう様支援している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	今後想定される事故等に対し、事例をあげ検討し未然に防ぐ様に努めている。 又事故が発生した場合、緊急に全体会議を行う等再発防止に向けて検討している。 又未然に防ぐ為特変事等連絡ノートに記入しスタッフ全員が事故防止の為対応出来る様努めている。	○	職員全員に危険性の認識にばらつきがあり、研修の場を設けた中で統一を図っていきたい。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急マニュアルを整備し、対応方法等について適切に行なえる様している。 年に数回開催される救命救急等の研修に勤務調整し順次参加している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方等の訓練を行なっている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居者一人ひとりに起こり得るリスクを把握し、家族に説明し協力してもらい、自由な生活が出来る様対応策を得られる様にしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝、バイタルチェックを行ない、入居者の変化や異常の発見に努め、速やかに対応出来る様にしている。 又情報を職員全員が把握出来る様申し送りや連絡ノートで確認している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬シートをファイルしており、職員がいつでも内容を把握出来る様になっている。 服薬は入居者に都度手渡しをした上、服薬したことを確認している。 薬が変更になった場合には、申し送り並びに連絡ノートで伝えている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	個々に排便パターンを把握し、乳製品を取り入れる様工夫している。 又身体を動かす活動を行い、自然排便を促す働きかけを行なっている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	個々の習慣を踏まえ、口腔ケアを行う様働きかけている。 口腔ケアの重要性を職員が理解し、適切なケアが行なえる様努めている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々に毎食の食量や水分量を記録し、職員が確認出来る様にしている。 又月1回カロリーチェックを栄養士に点検してもらい、栄養バランスの見直しを行なっている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、具体的な予防策に努めている。 又入居者、職員共にインフルエンザの予防接種を受けている。	○	感染症の発生を防ぐ予防策等の勉強会を行ないたい。
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所のシンク、まな板、ふきん等、毎食後消毒し清潔を心掛けている。 食材は毎日新鮮な物を用意し、残りの食材の点検を頻繁に行なっている。 冷蔵庫の消毒も定期的に行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前にプランターやベンチ等を置き、家庭的な雰囲気と親しみやすさを出している。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	五感や季節感を取り入れる工夫を行い、家具も木目調のものを使用し落ち着いた雰囲気を作り出し、居心地良く過ごせる様な工夫をしている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個々の状態や気の合った入居者同士がくつろいだ雰囲気で過ごせる様ソファや喫煙スペース等を確保している。	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者の馴染みの物が持ち込まれ、入居者の居心地の良い生活スタイルに工夫されている。	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	定期的に温度と湿度をチェックし、調節をこまめに行う様にしている。トイレ等の換気を頻繁に行い、消臭剤等で悪臭を除く工夫をしている。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	入居者の状況に合わせて手すりの設置や段差の解消を行なっている。又利用者の行動の抑制にならない様、個人の状態を把握し適切な生活環境の改善を行い、安全と自立の支援を行なっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱を招くものの原因を取り除き、個々の状態の変化について職員同士で話し合い、能力を発揮出来る様工夫している。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ホーム周辺に植物を置き水遣りや手入れを行なっている。 又ベンチを設置し、喫煙や日光浴等を楽しんでいる。		



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんど掴んでいない</li> </ul>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 毎日ある</li> <li>② 数日に1回程度ある</li> <li>③ たまにある</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての家族</li> <li>② 家族の2/3くらい</li> <li>③ 家族の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどできていない</li> </ul>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ毎日のように</li> <li>② 数日に1回程度</li> <li>③ たまに</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

ケアの方向性を決定する際、常に入居者やご家族の要望や意見を尊重したものとしています。又入居者が明るく穏やかな環境で生活が出来る様スタッフ全員が常に笑顔で接することを心掛けております。